

あなたと議会をむすぶ ぎかい広報誌

わたしたちの

しやうわ

2009

140

1月27日号

町議会

山梨県昭和町議会ホームページ
<http://www.town.showa.yamanashi.jp/>

精鋭がそろって守りは万全!!



昭和町消防出初式

12月定例議会

一般会計補正予算 9,443万円	2
「多事争論」・区長と議員の座談会	6
9議員が一般質問	9
追跡 あの質問はどうなった?	18
昭和町に住んで良かった!	20

12月
議会で
決まったこと

町営団地建替(第2期)予定地(上河東二区)



平成20年12月定例町議会は、12月9日から12日まで4日間の会期で開かれました。
平成20年度一般会計および特別会計の補正予算6件をはじめ、合計12案件が提出され、このほか請願2件と、議員提出の意見書1件を含む各議案は常任委員会に付託して審査の結果、いずれも原案のとおり承認、可決、採択して閉会しました。
9日の一般質問には9人の議員が立ち、生涯学習、福祉、文化、保健、財政、防災、環境、行政改革など町政の課題について幅広く質問を展開し、町の考えをたどりました。

町営団地建替 (第2期)工事に 3億9,354万円

子育て支援医療費に2,400万円

一般会計補正予算(第3号)
9、443万円を増額し、
予算総額を83億2、385万
円とするもの。

【歳入】

国のまちづくり交付金3、
611万円、老保会計からの
繰入金3、198万円、町債
2、430万円の増額補正が
主な内容。

【歳出】

常永土地区画整理組合への
公共施設管理者負担金8千万
円、子育て支援医療費・ひと
り親家庭医療費の不足分2、
424万円などが主な増額補
正で、各費目の減額補正と差
引して9、443万円の増額
になりました。各費目の剰余

金3、077万円を財政調整
基金に積み立てました。
全会一致で可決

国民健康保険特別会計補正
予算 (第2号)
525万円を補正増額し、
予算総額を14億8、867万
円とするもの。

【歳入】
国保税滞納分を30万円、療
養給付費等交付金495万円
を増額補正しました。

【歳出】
療養諸費35万円、高額療養
費460万円などが主な内容
です。
全会一致で可決



工事が進む常永土地区画整理地内
(飯喰地区より富士山を望む)

老人保健特別会計補正予算

(第2号)

3、224万円を増額し、
予算総額を1億3、603万
円とするもの。

【歳入】

前年度繰越金3、224万
円を増額補正しました。

【歳出】

共同電算処理費を20万円増
額し、一般会計への繰出金3、
198万円などを増額しました。
全会一致で可決

介護保険特別会計補正予算

(第2号)

歳入・歳出とも、今後の事
業費を見込んで1、326万
円を減額補正し、予算総額を
5億5、324万円とするもの。
全会一致で可決

下水道事業特別会計補正予

算 (第1号)

35万円を増額し、予算総額
を13億3、064万円とする
もの。

【歳入】

繰出金325万円および町
債を減額、前年度繰越金、受
益者負担金、使用料を増額。

【歳出】

上水道管移設補償費3、
510万円を増額、各費目の
不用額を減額。
全会一致で可決

条例の改正

・国民健康保険税条例の改正

政令の改正により出産一時
金が引き上げられたことに伴

う町条例の改正。

・手数料条例の改正

住基カード発行の手数料が
無料化されたことに伴う町条
例の改正。
全会一致で可決

町道路線の認定・廃止

・紙漕阿原地内の(仮称)沼
公園北側の新設道路1路線の
認定。

・常永土地区画整理地内の新
設道路101路線の認定。

・右の事業により起終点が変
更となる既認定道路13路線の
廃止および17路線の再認定。
全会一致で可決

契約の締結

・町営常永団地建替(第2期)
工事請負契約の締結

契約の方法

公募型指名競争入札(落札)
契約金額

3億9、354万円

契約の相手

早野組・井口工業共同企業
体
全会一致で可決

・押原公園整備工事第3工区
(変更)請負契約の締結

契約金額

(変更前) 1億1、340万円
(変更後)

1億1、590万9、

500円

変更の内容

時計塔変更による増加工事。
全員賛成で可決

専決処分の承認

・第二期町営住宅建替に伴う
解体撤去工事の変更

契約金額2、415万円を2、
609万円に変更するもの。
全会一致で承認

議会広報編集委員会では、
親しまれる議会だよりの発行を
目指し、表紙写真を募集します。

[募集要項]

カラー写真であること
未発表のオリジナル作品
サイズは2L版以上のもの
デジカメの場合、画素数が300万画素以上
(データで提出してください)

[応募方法]

撮影者の氏名、住所、電話番号、撮影場所・
年月日、タイトル名をつけ、議会事務局
宛お送りください。

問い合わせ先：275-8842

地域交流センターが完成

全議員で施設の確認

12月16日、押原中学校に隣接する町民体育館の跡地に、地域交流センターの建物が完成しました。住民の交流、地域活性化の拠点として、コミュニケーション活動を支える中核的な施設で、中学校でも使われます。移動式の電動折りたたみ椅子300席を備えて、集会や

映写会、各種イベントに合わせた椅子の配置が可能です。

3月に竣工式を行い、一般開放は4月を予定しています。町民体育館の解体・倉庫の移設・外構工事などを含めた総事業費は6億3、912万円です。



地域交流センター

請願

議会から町長へ請願書を提出

「母子家庭」も「父子家庭」も平等な扱いを

父子家庭や母子家庭を「ひとり親家庭」として平等な取り扱いにする請願
1、「ひとり親家庭」として平等な取り扱いを要望する。
2、児童扶養手当、自立支援給付金など、国の制度の対象外となっている父子家庭への支援を、県と町の努力で実施していただきたい。
全会一致で採択

意見書

議会から国へ意見書を提出

地方の道路整備財源の確保を道路は地域経済の活性化や、住民の生活を確保するための最も基本的な社会資本である。本県は自動車交通への依存度が高いが、道路の整備は依然として立ち遅れており、これまで道路特定財源に加えて多額の一般財源を投入し、生活道路の整備をはじめとして、産業、防災、医療など国民の安全安心と活性化に努めてきたが、国の道路特定財源の一般財源化の方針により道路整備の財源が確保されるか危惧される。次の事項について強く要請する。
1、地方が必要とする道路財源を確保、拡充すること。
2、地方道路整備臨時交付金の維持拡充、または代替制度の確立。
3、中部横断道路をはじめ、高規格幹線道路のネットワークは建設のスピードを落とさず早期に整備を進めること。
4、新たな道路中期計画策定は、地方の状況を十分に踏まえて行うこと。
5、暫定税率失効による影響は、国が適切な補填措置を講じること。
(提出先) 衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 総務大臣 財務大臣 国土交通大臣
14対1で採択

地域ボランティア

防犯灯の交換と清掃

河西区

12月7日、河西区では防火組合の役員18人による防犯灯の交換と清掃活動を行いました。地域内の防犯灯120本あまりの交換と、蛍光灯を覆っているカバーの拭き掃除で見違えるように明るくなり、毎年の活動により維持費も安く抑えられています。



河西区防犯灯清掃活動

産業土木常任委員会

粗大ゴミの搬出状況を視察



12月17日、産業土木常任委員は町内12カ所の粗大ゴミの収集状況を見て回りました。搬出状況は大分改善されましたが、まだ出していないものを出す住民もいます。お互いに注意しましょう。

12月16日、国母工業団地内の横河マニユファクチャリング(株)甲府工場を視察しました。中村工場長の説明によると、資本金434億円、従業員1万9、286人、国内の関連会社28、海外の関連会社61社を擁し、「もの作り」は「ひと作り」という理念のもと、人材と技術の育成、「お客様第一」を基本としているそうです。

計測と制御と情報をテーマに、産業界の基準となる計測機器を製造しており、CO2削減など環境エコにも取り組んでいます。整理、整頓、清掃の行き届いた素晴らしい工場を見学し、多くのことを学びました。

横河甲府工場を視察



横河マニユファクチャリング(株)視察

多事争論

開かれた議会を目指し、住民の皆様のご意見を議会活動に反映させるため、住民の先頭にたって活躍されている区長さんと意見交換会を開催しました。

紙面の関係で、全12地区の区長さんとの話し合い要旨のみの掲載です。

(敬称略)

参加者

西条清水	西条新田	西条中島	西条東区	中澤河西	深澤日向	深澤雨宮	勝野河田	名執堀之内	二宮石川	幸紀秀昇	周作平助	清朗令晴	あけみ昭男	法政一英	重明
------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	-------	------	----

以上12区長ほか町議会議員

各区長から出された意見

町民の声を十分に取り入れた各種施設の建設を望む
 愛育会および青少年育成会など各種団体のあり方
 押原公園の駐車場を高速バスの利用者には開放できないか
 常永土地区画整理事業に関する要望
 社会福祉協議会諸事業の活性化

司会(二宮区長会長)

昭和町議会は、山梨学院大学ローカル・ガバナンス研究センターとの連携協定により、議会改革を推進しているが、若者の視点で、さまざまな角度から町政をただしてもらいたいということがある。今回の区長と議員の意見交換会もその趣旨を踏まえたものである。

浅川議長

地域の状況を把握している区長さんから率直なご意見をお聴きして、より良い町づくりのための協議ができればうれしい。

司会 先日亡くなられた二宮区長「多事争論」ということを言われていたが、ぜひ皆さんのご意見をお願いします。

町民の声を十分に取り入れた各種施設の建設を望む

河東中島区長 町の施設の中には、町民が望まない施設があるのではないかと声を聞く。多くの町民の声を聞いた上で、議会で議決すべきではないか。

浅川議長 議会としてもどう

のか、説明責任がある。押原公園は現在工事中であるが、サッカーが最初から表に出てしまい、住民に理解されていない部分がある。平成22年3月完成までに、利用方法についても十分住民の意見を取り入れて当局に要望していきたい。

萩原副議長 大きな事業はど

うしても年月がかかるため、議員・建設委員・区長も変わり難い点がある。押原公園は当初サッカーの公園ということが一般的に流れてしまい、その後、防災公園という形である。いろいろな施設が造られてきたが、新しい役員には、経過が良くわからないという面がたまたまある。

河東中島区長 温水プールなどのくらしい利用されている

か。費用対効果を考えるとあれば必要だったのかな。

【参考】

平成19年度	
町内利用者数	35,908人
町外利用者数	13,437人
計	49,345人
平成18年度より	524人増

塩澤議員 建設当時は、プールの施設がほとんどなく、強い要望があったと思うが、今は新しい施設があちこちにあるので、そういう声も出てくるのだと思う。今後は、費用対効果が高くなるような方法も考えなくてはなりません。指定管理者制度を導入するという意見も議会の中にはあるが、総合会館の温泉にしても町民の福祉には大切な施設だと思つ。

樋口議員 私は当時、体協の理事長をしていたが、工業団地の従業員から福祉施設として温水プールを造ってほしいという要望があり、体協と町長であちこち調査をし、建設委員会をつくって建設した。当時は、年間8万人ぐらいの利用者があつた。



河東中島区長 お風呂なんか ところもある。もそうですが、町内外を分けるのは難しく一律で決めてしまつて、その代わり町内の人に特別に無料券を何枚か出す

司会 今後、利用方法については考えていくことにして、次の議題に移る。

▼ 愛育会および青少年育成会など 各種団体のあり方

上河東二区長 愛育会や青少年育成会は「私の家には子どもがいないから」と言つて入つてくれない区民が多い。役員の人選にも悩んでいる。会の規約・取り決めがあれば区民に説明して、お願いしていいのではないかと思う。



区長との意見交換会

田中議員 愛育会や青少年育成会のリーダーが自治会に行つて、会のルーツや活動の趣旨をきちんと説明しないと理解が得られないと思う。リーダーシップをとる人がいないと難しい。

保坂議員 青少年育成とは、地域の子どもは地域で守ると言う理念が基本ですから、そういうところから説明していくのもひとつの方法だと思う。愛育は、最初は小さい子どもが対象であったが、今は高齢者も見守ることになっている。誰でも協力できると思う。

河東中島区長 愛育の役を指名されても、昼間は勤めがあり会議も夜間しかやってくれない。あの組には愛育はないからうちの組もなくていいだろうと、みんなするざるやめてしまふ。

福島議員 私も役場に勤めていた当時、婦人会がなくなつていく。なんとか存続を当時の会長さんと話し合い努力しましたが、最終的には解散になつた。町長と話をし、各地区に婦人会に代わる組織をつくつてほしいとお願ひし、清水新居など2・3の地区でつくつていただいた。

保坂議員 清水新居では婦人

会は残っている。本会はなくなつたけれど、清水新居には婦人会、愛育、食推の3団体があり、婦人会の会長が婦人部の代表です。

上河東二区長 区長も1期2年で終わつてしまふし、引継ぎもないと理解不足になつてしまふ。

萩原副議長 地区によりかなり活動の仕方も違つてくる。

河西区の場合は、会費を1軒千円出すと言ふことでやってきたが、うちは子どもがいなから出さないよということがあつて、区からは育成会へ50万円予算化している。

▼ 押原公園の駐車場を高速バスの利用者には開放できないか

西条二区長 中央自動車道の

高速バスを利用する人が非常に増えて、高速バス停付近の道路に違法駐車する人が多いが、中央道高架下を町から道路公団にお願いし、駐車場にできないか。

浅川議長 あの場所は以前にも駐車場にとつてほしいという要望もしたが、上から落下物があつても被害の補償はできないのでだめと言ふことでした。駐車禁止を取り締まつてくれという

深澤議員 規約・綱領等については、そんなに固いものではなくても、諸団体の目的はあるので、区長会長から当局にお願いしてみてもどうか。

浅川議長 私も前に区長をしてきたが、育成会をどういふふうにやつていくかというふうな区長同士の話し合いもなかつた。役員がなかなかでない今の状況では、行政もある程度関わつていかなければならない。

司会 愛育会・育成会の規約等は当局にもお願いし、区長会としても勉強しながら話し合いを進めていきたい。

声も多い。

福島議員 昭和町以外の利用者も多し。昭和町の責任で何百万もかけて対応すればいいという問題ではない。

田中議員 高速バスの営業ですから、バス会社を含め、みんな対策を考える必要がある。

浅川議長 この件については議会で検討課題としてみる。



常永土地区画整理事業への要望と 桜並木の河川整備予算化を

上河東区長 区境の線引きを早くしていただきたいことを要望する。来年度に向けて区費の徴収ということや別の区に移るといふ例も出てくるので、線引きを住民に早く知らせていただきたい。

また、桜並木の整備については、イオンがあつた場所を選んだ理由に、南に富士山北に八ヶ岳、東に桜並木というロケーションの良さが気に入つたそうだ。桜の咲くころはいいが、散れば汚くなり、



山伏川桜並木

川も汚れている。上流は川藻が多く、これからの集客には、周辺の河川美化が必要だと思

社会福祉協議会の活性化を

上河東区長 社協の理事の仕事は、住民の地域福祉の推進のために中心的な活動をして

いただいているが、当区の場合、赤い羽根は区費から出しているし、赤十字の社費も区長が組長にお願いして区長がまとめている。敬老会もこの区もそうだと思うが、区長が立案して段取りをして実施しているのではないか。区長の仕事が非常に多い。敬老会などは理事がいるのだから、

本来の「住民の地域福祉活動」に重点をおく社協の理事に仕切ってもらったらどうか提案する。

深澤議員 それだと、役員を選出が大変ではないですか。
萩原副議長 理事を決めるにしても、区がかかわるからできるが、社協だけにしてしまうと役員もきまらない。

保坂議員 敬老会は福祉課の

う。区に任せるのでなく、行政が業者に発注して泥上げや、河川の整備をするよう予算化してほしい。
浅川議長 今後、当局に検討してもらおう。

事業で、社協の事業ではないですよ。区によつては民生委員が主になつていて地区もあり、福祉の関係だから社協理事もかかわつていてということですよ。

浅川議長 町の福祉課から区へ敬老会の補助金がいくので、最初はどこも区が主催でやつていたと思う。よく考えていかなければならない部分も多いので、議会でも協議していきたい。

三井議員 旧田富町あたりでは、体育館に全員集めて芸能ショーなどしているところもある。昭和町でも何年前に見直しの話もあつたが、今もそのままである。

山梨学院大学生による学生議会では、昭和町の高齢者福祉について、敬老祝い金等を見直して、もう少し子育て支援に回したほうがいいのでは

との意見もあつた。
司会 社協や敬老会のあり方についても今後、議会で話し合つていただけると言うこと

その他の問題

紙漕阿原区長 現在、区長の中に議員が2名おられる。

区長の仕事量は非常に多く、議員にそこまで負担をかけていいのかわからない。区民はあまりに無責任ではないか。ぜひ、解決策を検討してほしい。

浅川議長 区長のなり手がなく、どこの区でも選任には苦慮していますね。議員なら、いやとは言わないだろうということを押付けられている部分もありますが、本来はまったく別の立場です。議会と区長会が一緒になつてしまつたらどつちをとるんだという問題も出ます。

議会改革の一環として、議員が町民の声を聞きたいということ、議会報告のようない形で各区を何人かの議員でまわつて、気楽に話し合える場をつくりたい。

飯喰区長 昨年飯喰で実施したが、他地区の議員に来ても

です。よろしくお願いします。

らつて、いろいろ町の話を知ることよかつた。

福島議員 ただ、議員は町の執行部ではないので、その辺は理解していただきたい。
司会 議員が来れば要望が出るのが当然ではないか。

浅川議長 要望・意見はいいですよ。区長も議員も地域住民の代表なんです。決定権はないが、常に住民と接触し、問題点を吸い上げてそれを行政に反映していくのが議員の役割です。

司会 今後、区長会でも議論して、町への要望事項だけでなく、他の区の状況を聞いて話し合うようにしていきたい。

浅川議長 区長の皆様からいただいたこれらのご意見を調査・研究し、今後の町政運営にいかすよう議会として検討していく。

ここが聞きたい

施策を問う

12月定例議会では9人の議員が一般質問に立ち、14項目について町の考えをたどしました。



たなか ひろよし
田中 博愛 議員

Q 生涯学習活動の拠点施設の整備を

昭和町の総合計画は、生涯学習推進体制の整備を掲げ、実施計画において公民館事業、文化活動の推進等を明記している。

現在、生涯学習活動の推進体制は、公民館を拠点として、推進委員を中心に、子どもクラブ、文化協会、体育協会などの各種団体が相互に連携を図りながら形成されている。現在の公民館は狭隘で老朽化が進み、活動が困難な状況になっている。将来を見据え、文化、芸術等の拠点となる生涯学習センター、いわゆる昭和町文化ホールの建設を考えるべきではないか。施設整備についての所見を伺う。

A 町民の声を生かし検討する

町長 本町の生涯スポーツは、押原公園の完成で一層充実し、県下に誇れる環境といえるが、中央公民館の老朽化や文化関連施設の整備状況は以前から指摘され、第5次総合計画にも整備がうたわれている。

一方、本町には、結婚式場、シヨッピングセンター、レストランなど、ホールや集会室・会議室を備えた民間施設が多い。民間施設利用の推進は、町内企業の育成や官・民連携の観点から、重要な施

策といえる。近く完成する地域交流センターは、自動可動式客席のロールバックチェアが設置され、スポーツだけでなく、文化、芸術の発表、展示等にも利用できる。センターや充実した町内の学校施設の活用を含め、町独自の文化・芸術振興の条件整備を教育委員会とともに詰める中で、大規模事業の進捗状況との兼ね合いで、生涯学習センター的な施設の整備について検討したい。



生涯学習活動の拠点 中央公民館



妊婦の喫煙率、乳幼児の受動喫煙率は

平成17年3月、昭和町次世代育成支援地域行動計画が策定された。母子健康事業のひとつとして、21年度における、妊婦の喫煙率、乳幼児の受動喫煙率ゼロ%の達成が目標とされている。現在の喫煙率の数値は。どんな事業が成果を上げたのかを伺う。



ほ さ か て る こ
保坂 明子 議員

A 禁煙指導に努める

町長 妊婦の喫煙率は、妊娠が分かる前まで喫煙していたものを含む数値で、19年は20.0%、20年は10月現在17.9%で、妊娠判明後は1.6%。乳幼児の受動喫煙率については、今年度実施の予定。早期の禁煙指導として、中学生の「思春期赤ちゃん抱っこ体験」や、妊婦の個別相談、母親学級等での指導を実施している。



平成15年当時の妊婦の喫煙率は27.8%

MEMO

《愛育会》
愛育会とは、健康づくりを目的に地域の人々すべてを対象にし、みんな生活の中から健康問題を出し合い、解決しようとする住民の組織活動です。昭和町では昭和36年に発足し、47年の歴史と実績を持つ組織活動です。健康づくりは個人の努力と実践が基本ですが、一人ひとりで健康を守ることは限界があります。愛育会は、個々の様々な健康問題を自分たちの課題として、ともに手を携え、支えあい、活動しています。また行政とは連携、協働によって活動し、健康で住みよい「まちづくり」を目指しています。

《具体的な活動》

- 声かけ・見守り
- 話し合い（班員会議・正副班長会議）
- 地域のニーズに応じた活動
- 行政との連携・協働による活動

町長 愛育会が全地区で存続することを願っている。昨年度から始めた「こんにちは赤ちゃん訪問事業」は、愛育会のない地区でも実施されており、今後も支援を継続したい。

A 積極的に支援する

母子保健事業の一翼を担ってきた愛育会のない地区がある。自主組織ゆえ、解散も止むを得ないのか。行政サービスの公平性の観点からも危惧される。行政の真摯な取り組みを。

Q 愛育会活動への行政の取り組みを

Q 常永地域整備計画事業は

昭和町都市計画マスタープランに、常永駅前通り線と環状常永駅南通り線の整備事業計画がある。数年前から地元が要望している、町道14号線の渋滞対策、第4横田踏み切りの改善への取り組みは、常永地区土地区画整理事業と、常永駅周辺整備計画の関連について何う。



かわすみ やすしげ
河住 保茂 議員

A マスタープランの見直しを図る

町長 ご指摘の路線は、整備プログラム的大幅な遅れがある。県の計画マスタープランの策定もあり、常永地区土地区画整理事業の進捗状況を見ながら、町のプランを見直す必要がある。町道14号線の渋滞対策には、踏み切りの新設と周辺の2カ所の閉鎖について、地域住民の合意が必要となる。常永駅周辺整備は、今後検討していく。



保管されている昔の家財道具等

Q 文化歴史資料館建設は

役場の倉庫には、多くの歴史ある物品が保存されている。町内から、さらに資料等の提供を受けて常時展示し、町の歴史を学ぶ文化資料館をつくることはどうか。

A 資料館については今後検討

町長 現在、保管されている民具、農具類だけでは、内容的にも点数的にも魅力に欠け、資料館建設は難しい。教育委員会では現在、町の文化財の見直し、発掘していく文化財ガイドマップを作成している。イベントや地区行事などの折にも貸し出すなど考えたい。なお、文化財審議会から、「地方病と杉浦博士・かすみ堤・源氏ほたる・湧水・伏流水」など、水をテーマとした資料館を検討することが必要であると指摘されているので教育委員会と協議しながら検討する。



かわだ
河田あけみ 議員

Q はしか予防 今後の対策は

はしかは子どもの病気と考えがちだが、若い世代にも多く、昨年は関東などで大流行した。本町の小学校入学前の接種率はどのくらいか。中高生の接種率はどのくらいか。ワクチン接種が進まない原因と今後の対策は。

A 小学生以下の接種率は 県下トップレベル

町長 小学校入学前の1期、2期とも接種率は高く、県下トップレベルの95・5%。3期の中学1年生は50・4%、4期の高校3年生は32・9%となっている。部活や塾などで忙しく、受ける機会がない話を聞く。ホームページでのPRや、3期の接種率向上には、集団接種できるよう調整する。

A 高齢者の検診を 促進する

町長 65歳以上の29人に障害者手帳を交付。健診での生活機能評価項目の追加は可能だが、医師の協力、フォロー等については検討が必要。

高齢者の難聴の実態は、高齢者基本健診に聴覚検診を取り入れては。

Q 高齢者の聴覚検診を



道徳授業風景

Q 道徳教育は

道徳教育を行ってきた経過と、生徒の心の変化や学校運営、学力の成果などを伺いたい。

A 子どもたちを取りまくあらゆる教育環境を整備している

教育長 町内4校の共通した学校運営方針は、昭和教育の基本理念を念頭に、父母・家庭・行政・地域・児童生徒と学校が理解しあい、連携して安全・健康・学力・信頼・参加に向け、教育実践していくことが基本。道徳教育の成果検証は難しいが、あいさつの励行や掃除の協力、いじめ・不登校の児童生徒の割合が少ないことも実証されている。

Q 常永土地区画整理の 県道付け替え問題は



はぎはら 萩原
かある 馨 議員

常永土地区画整理も認可され10カ月が経過した。区画整理地内には長い歴史を持ち、地域文化、経済の発展に寄与した生活道路があり、市川大門線、田富、昭和、竜王から敷島に通じる県道で、今は甲斐中央線と名称が変わっているが、県道として古くから親しまれてきた。

区画整理の完成で18メートル道路の南北線が県道となるが、甲斐中央線の幅員は6メートルと狭く、カーブも多い道路だが、地域の重要な生活道路となっている。この道路に接する区画外計画道路や歩道、河川の改修などの具体的な計画を伺う。

A 県に要望し道路整備完了後に移管替え

町長 常永土地区画整理はまちづくりの基本となる事業で、良好な市街地形成、宅地利用の増進を図る重要な事業と考え、組合に対し助成を行い事業を進めている。県道の移設替えは、都市計画道路・常永小学校・南北線の供用開始前に、甲斐中央線の補修・改修個所を、地元や関係各課と協議し、県に要望を行って道路整備が整い次第、移管替えを行いたい。

区画整理地区外の周辺道路の環境整備は、清川の改修・幹線道路整備等、計画的に整備を進め、新たに市街化編入された区画整理地区外の区域についても、地区計画が都市計画決定されているので、道路整備ができる状況になったら検討していきたい。



県道への取り付けが進む道路工事

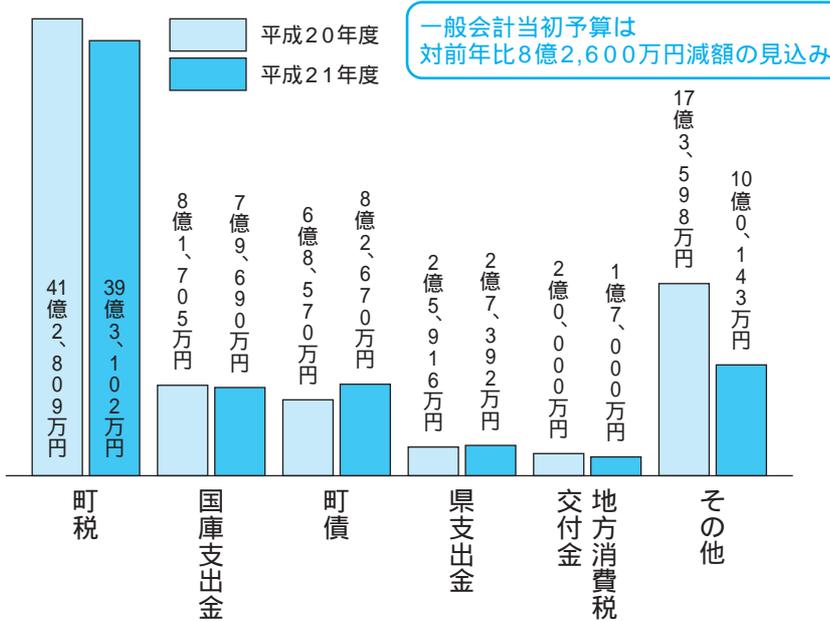


財政の現状と 今後の計画を問う

昭和町は恵まれた財政のもと、近隣町村にないまちづくりができたことを、町民は誇りに思っている。昭和40年から平成10年までの野呂瀬村長、その後石原、泉、長田の各歴代町村長の考えは、町の発展は財政基盤の確立であるとして、財源確保のために大変な努力をされ、それが国母・釜無の両工業団地の企業誘致、関係者の地域開発に対する理解と協力で、今日の昭和町となったところである。

現在、世界的な景気減速や企業収益の減少、雇用の悪化、個人消費の低迷などで、不安定な状況となっているが、事業の見直しや経費削減など、新年度予算の編成には厳しい取り組みが要求される。町では短期、中期、長期の財政計画をどのように立て、現状をどう考えているのか伺う。

平成21年度一般会計当初予算分析表(見込み) 歳入



歳出削減視野に 予算編成に取り組む

町長 昭和59年に優良企業が立地する二大工業団地を形成し、税収増に伴って地方交付税不交付団体として安定した財政力による活力ある財政運営を行ってきた。

新年度予算編成では、税収見込みは大きく減収が予想されるが、新規・拡充事業の選択は既存事務事業の見直しを行い、事業の必要性、有効性、公平性、効率性の視点から検討を加え、緊急度・重要度に応じた優先順位で、歳出削減を視野に入れ予算編成に取り組んでいきたい。

中長期的な財政状況を推計し、計画的かつ健全財政を堅持し、財政運営を考える指標のひとつとして、中長期財政見込みを策定している。

限られた行財政資源のもと、高度化・多様化する住民ニーズに適切に対処し、第二次行財政改革を推進し、「小さくても豊かなまちづくり」を目指していきたい。

住宅用火災警報器設置促進を

町の消防行政は、広域事務組合甲府消防本部の常備消防と、昭和町消防団によって維持され、町民の生命・身体・財産が守られている。

平成16年の消防法改正で、全国一律に「住宅用火災警報器」設置を、平成23年5月までに行うよう義務付けている。住宅火災の死者数の7割が逃げ遅れによるものだが、警報器設置の義務付けで、イギリス・アメリカでは死者数が半減するなどの効果を挙げているという。

火災警報器の効果・有意義性を町民に周知し、台所に熱式警報器（自主設置）、階段・寝室に煙式警報器（義務設置）の複数個設置が理想である。家庭での負担軽減のため、町での一括購入等で安価に家庭に設置できるよう進めてはどうか。町長の考えを伺う。



野中 敏美 議員

A 普及活動・負担軽減を検討する

町長 消防法の改正に伴い、本町が加入する甲府地区広域行政事務組合の火災予防条例においても、17年7月に設置義務の条例改正を行った。

町でも普及活動を広報等で進め、住宅用火災警報器のアンケート調査を、各区長を通じて実施している。この中に共同購入等の要望調査も

あり、本町住民の火災警報器設置に対する状況等が把握できるので、調査結果を検証し、普及活動や負担軽減など、町としての取り組みも検討していく。

なお、一括購入等については、自己責任分野の設置義務であり、慎重に考えていきたい。



住宅火災警報器パンフレット



環境問題にかかる 条例の指導強化は



ふかさわ へいすけ
深沢 平助 議員

町内の耕作者の高齢化により、未耕作農地に雑草等が繁茂し、苦情をはじめゴミの投棄等、環境の面から近隣の人々に迷惑となっている。町では「空き地等に繁茂した雑草等の除去に関する条例」が制定されているが、生かされていないと思われる。住宅環境の急速な変化で、地域における環境整備は一層の配慮が必要だが、町の対応を伺う。

A 良好な居住環境の確保に努める



道路へのはみ出し樹木

町長 不耕作農地は、保全管理されていけば問題ないが、放置された場合、周辺耕作地や住民に影響があるので、町として条例の規定に基づいて指導を行っている。また、条例の運用強化と農地銀行制度や、遊休農地利用促進制度の周知を図り、個々の事案問題の解決に当たり、良好な居住環境の確保に努めていきたい。

Q 家庭の樹木条例の 制定を

多くの家庭には思い思いの樹木が植えられ、古くからの住宅には長年の手入れの行き届いた樹木が目を引き、心なごむ趣がある。ところが、樹木の枝が道路まで伸び、道路を利用する人々の歩行、車の走行に迷惑になっているところもある。仮称「境界を越えた樹木の枝等を除去する条例」の制定をしたらどうか。

A 強制力のある 条例制定を検討

町長 現状多くの個所で、はみ出た樹木等が見受けられる。危険個所は剪定等の適切な管理を行うよう指導し、交通安全指導員を中心に安全確保に努力していただいている。今後、指導だけでなく、勧告・命令など、強制力を定めた条例の制定も検討していく。

行政出前講座の促進を

行政の意思決定の方法として、住民参加が上げられているが、どれだけ理解されているか疑問だ。ホームページでの町長への意見箱・要望等も設置されているが、双方とも方向性にかけている。

各地区に担当職員を配置し、住民と行政との橋渡しを積極的に行い、問題

解決ができるなどの仕組みが必要だが、行政区の担当職員を決め、町の仕組みや各課で具体的項目を作り、区長会等で要望を聞き、担当職員の出前講座で町への要望を聞くなど、広く理解してもらうよう推進すべきと考える。町長の考えを伺う。



志村 茂 議員

A 行政区制度改革が必要

町長 まちづくりに興味・関心を持っていたため、情報公開やパブリックコメント、「ひとりの声」などの町民意見提出制度を充実してきた。提出された意見は現状を調査し、意見の適否を判断している。町民の参加・参画を促し、協働のまちづくり推進のため、町民の貴重な意見すべてに目を通し、基本的に2週間以内に返事を出している。「行政区制度改革」が必要で、

各地区担当職員制度を設け、地域が財源と権限を使って主体的な事業をするとき、事業円滑のために計画立案等の手助けをしたいと考えている。

現在、昭和町では出前講座の制度を設けていないが、従来から職員の講座を地域で開催しており、町民からの要望に応じ、地域に向いて説明する機会を増やしていきたい。



公共施設の窓口におかれている町民意見箱「ひとりの声」

追跡



あの一般質問の結果は？

過去に質問したことが、現在どうなっているのか調査しました。

犯罪防止に青色防犯灯

(平成20年3月定例会)



常永駅前青色防犯灯

答 町内において犯罪の抑止効果を検証するため、平成20年度事業として、国母駅駐輪場の防犯灯や常永駅周辺の街灯について青色防犯灯の導入を実施してみる。防犯対策として効果が実証されれば、安全・安心な町づくり推進協議会等において活用や設置場所等について検討する。

問 全国的に凶悪な犯罪が多発している。昭和町でも安心・安全な町づくりを進めているが、それでも犯罪が発生している。犯罪の防止に効果がある青色道路照明灯や青色防犯灯の設置は、十分有効だと思う。試行的に設置したらどうか。

現在は

常永駅周辺と国母駅周辺の防犯灯は、犯罪の抑止効果検証のため青色防犯灯にかわった。

国母駅にトイレ設置

(平成19年12月定例会)

問 身延線は、国鉄民営化に伴いJR東海の所屬となり、国母駅は平成11年改築工事が行われ、駅舎の縮小とあわせてトイレが撤去されたままだ。国母駅にトイレの設置を望む。

答 国母駅公衆トイレの設置については、今後も甲府市と共同設置について努力するが、当面、町単独事業として駅舎西側に隣接する西条地区児童公園に、公園用のトイレ設置を考えている。これにより駅利用者や公園の利用者の利便性は図れると思う。

現在は

西条地区児童公園に平成20年12月完成したトイレは、公園利用者と駅利用者に喜ばれています。



西条児童公園トイレ

視察研修報告

平成20年度の議員県外視察研修は、10月23日～25日の3日間、北海道福島町と奥尻町を訪問しました。その要点について報告します。

研修委員長 三井 猛

議会改革のトップランナー

北海道福島町議会

【研修の内容】
 通年議会、1問1答、回数・時間無制限の一般質問など、活性化の先進事例に学び、本町でも導入を検討したい。

【研修の内容】
 福島町は議会改革・活性化に取り組み、制度改革を取り入れた地方議会として全国から視察研修に来町する議会が



奥尻島
 人口 3,422人
 職員数 102人
 議員数 10人

多く、当議会は質問事項を7項目に整理して事前に福島町に送付し、全員が質問するよう資料を整え、万全の準備をして臨みました。

通年議会制度

本年度は試行的に3月から9月までを一會期とし、21年度以降は4月から翌年3月までを一會期として、最初は町長の招集だが、以後は休会と再開の繰り返しで議長が随時再開できる。会期に制限されず、臨時会も随時開催可能

一般質問の一問一答方式

福島町の一括質問、一問一答方式では質問回数や質問時間の制限がなく、当局説明員からの反問も認めているので、徹底した論議ができること、議員にも傍聴者にも今何を質問し、回答しているのか分かりやすいなどのメリットがある

議会の評価制度、議員の自己評価制度

議員の自己評価は任意の制度であるが、賛否両論がありうまく機能していないとのこと。「住民のための議会」を目指す思いは我々と同じであり、昭和町議会も、導入可能な制度については、今後積極的に検討すべきであると思いました。

大震災後の復興の取り組み

北海道奥尻町

経験を生かし迅速な避難、全世帯に避難袋

【研修の内容】

平成5年に奥尻町を襲った北海道南西沖地震の発生は、夜10時17分であったが、気象庁の地震および津波警報の前、地震発生3分後には役場職員が防災無線で「津波の恐れあり、避難せよ」と放送した。国・道の支援と全国の皆さんの義援金などにより被災者支援が進み、約5年で復興で21品目を入れた避難袋を全戸に配布し、防災訓練には避難袋とヘルメットを着用して参加しているとのこと。「備えあれば憂いなし」のことわざの通り、大規模防災訓練と、日ごころからの各自の災害に対する心構えと準備が、いかに大切かという教訓を得た研修であった。



奥尻島被災状況



青空と緑と産業のまち「昭和町」に住む
町民の皆様からお便りが届きました

昭和町に

住んで良かった

Vol.4

私の人生・昭和町



押越
片山 卓見さん

押越に住み、会社は西条二区、メイン商圏は町内全域という不動産業を営む私には、「住んで良かった昭和町」どころか「私の人生・昭和町」といった感じで、あらためて感謝の念を禁じえません。

会社の車にも大きく、「昭和町に住んでみませんか」と勝手に「昭和町」を使わせていただいておりますが、いまだに役場や町民の方からおとがめもなく、走る広告塔として町内外に「昭和町」を売りにさせていただいております。

昭和町は、不動産人気としては、既に県内トップブランドとしての発進力がありますが、住環境の一層の魅力アップには、「芸術の香る街づくり」と、仲間と共に手づくりコンサートを定期開催するなど、私も微力ながら街づくりに参加して、楽しませていただいております。

特に押原小学校の多目的ホールで、窓越しの押原の杜の緑や風を感じながら聴く生演奏は、ホールとは違った味わいと感動があり、演奏家からも大変好評です。文化ホールのない昭和町ならではのコンサートですが、「逆転の発想」が生きる町というの可能性をたくさん秘めていて、私には魅力です。

ふれあいと笑顔で 子ども成長



上河東
杉原 政子さん

改めて思い返しますと、昭和に移り住んで25年になります。子どもたちが小さいころは、家の周りがまだ田畑も多く、テレビの音が聞こえないくらい力の力エルの大合唱に閉口したり、家にいながら身延線の電車に手を振ったり、いつしよにあげ道を散歩したことを懐かしく思い出しました。核家族ですので、周りの方にずいぶん助けただけながら、子どもたちも成長してきました。

今は「昭和町はいいね！」と他の町の方から言われるように、町の子育て支援や高齢者の福祉が充実してきました。図書館や温水プールなどの施設もいろいろありますし、交通の便もよく、本当に生活しやすいところだ。「昭和町にいてよかった」と日々感じていきます。

近ごろは取り巻く環境や社会も大変な時代ですが、人とのふれあいを大事にしたこの地域で、何か少しでもお役に立てることに関わりながら、笑顔で毎日が過ごせていたらと思っています。



新春を迎えほっとしたのもつかのま、もう、節分です。激動の世の中季節が変わるのも、いつもより早いよつな気がします。聞くところによると、丑年は、粘り強さと誠実の象徴だそうです。最近の話題は厳しいことが多く、景気動向とくに雇用問題は心配するところ。このような時代こそ一歩一歩確実に粘り強く暮らすことが大事なことでないでしょうか。

さて、昭和町は県内はもとより、県外からも様々な分野において注目されているまちです。大型事業に教育事業、今後ますますの発展が予想され実現されることと思います。

わたしたち議会には、陽の当たる場所、当たらない場所、これから大いに議論が求められています。そんなことをお伝えできる広報誌を目指していきたいと思えます。

(塩澤 浩・記)

議会広報編集委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 萩原 馨 |
| 副委員長 | 保坂 明子 |
| 委員 | 河田あけみ |
| | 河住 保茂 |
| | 野中 敏美 |
| | 塩澤 浩 |

わたしたちの
しょうわ
町議会

発行
山梨県昭和町議会
〒409-3880
山梨県中巨摩郡昭和町押越542-2
TEL.055-275-8842(直通)
TEL.055-275-2111(代)
FAX.055-275-5250

発行人
議長 浅川武男

編集
議会広報編集委員会
印刷 株式会社インターフェイス